

## 国民民主党代表選にあたって

参議院議員 伊藤孝恵

十二月五日、第二〇三臨時国会が閉幕しました。

九月の菅政権発足後、また新しい国民民主党としても初の論戦となった今国会は、衆議院・参議院共に、立憲民主党とは異なる党派として、政策提案に拘ることは勿論、政党としての「行動規範」例えば審議拒否は絶対に行わない、反対なのであればその理由を述べて論戦に挑み、対案を出すことを徹底する等、この国の新たな野党像、この国に必要な立法府の形を自分たちにも問いながら、四十一日間、悶え苦しむことを所属議員全員で決めて臨んだ国会でした。

先ずはこれまで、党の在り方をめぐり、ご支援頂いている皆さま、また全国各地で志同じく立つ仲間の皆さまに、大変なご心配をおかけ致しましたことを、心からお詫び申し上げます。

立憲民主党、国民民主党それぞれが解党し、新しく立憲民主党と国民民主党を結党する。代表者もそれぞれ同じで―

これに一体何の意味があるのか、何を成し遂げたくてそれを行うのか、それもこのコロナ禍の最中に：

どう申し開きをしても、多くの方に理解を得ることは難しいと思います。

この申し訳なき、悔しさを、必ず成長の糧とする決意と共に、新国民民主党で働くことを決めた一人として今回、九月の結党時にお約束した「フルスペックの代表選」は必ず行われべきものと思っています。

選択肢のない政治がいかにも腐敗していくか、選択肢のない人生がいかにも息苦しいか、常に政治が「選択肢をつくること」の重要性を訴えてきた我々が、自党の代表選を無投票で終わらせることは出来ません。

私は旧国民民主党の公募で選ばれ、四年五カ月前に政治経験もないまま此処に来た一期生の参議院議員です。期数が全ての永田町において、経験不足、能力不足の新人が、代表選に挑戦するなど、厚かましき甚だしいとの誹りを免れません。

しかし一方で、国民民主党は「つくろう、新しい答え」をスローガンにする党であり、一期生の女性議員が、幼い二人の子どもを育てながら代表を目指すことが許されています。この事は多くの政治無関心層、基、子育てや介護、仕事に追われ、政治どころではない方たちに伝えたい事実です。

私たちはもっと、自分をそのまま見せて、なぜ自らがこの課題に立ち向かいたいのか？強

い想いの根底にある理由を伝えることが必要なのだと思います。悲しみとは程遠い、安全な場所にいるのが政治家ではなく、この私も当事者なんだと飛び込んでいく。その位の気迫がなければ、この国の政治不信の壁は超えていきません。

その意味で、仕事をしながら娘たちを育て、九十歳を超えた祖母の介護に直面している、この苦しい当事者の毎日を心から誇りに思っています。

私は十二月八日から始まる代表選において、従来の、相手を時に激しく否定し、党を二分三分して戦うことを望みません。玉木代表の胸を借り、国民民主党の政策や偽らざる方向性、党内の雰囲気や人肌を伝える今日からの十一日間を過ごしたいと思っています。

私は全方位で政策を語ることが出来ません。常に周りの方々、先輩議員、同僚議員に助けして下さい、知恵を下さいとお願いしながら選挙戦を戦いたいと思います。

我が家には五歳と七歳の娘がおります。彼女たちに朝ごはんを作り、保育園や小学校に送り出し、夜は抱きしめて眠る。ピアノの発表会にも行く。この日常との両立を旨として活動させて頂きたいと思えます。

新型コロナウイルス感染症によって、沢山の「当たり前」が変化しました。政治活動、選挙活動も例外ではありません。永田町常識を大いに覆す選挙戦を、玉木代表と共に創って参ります。

最後に――

国民民主党は「自由」「共生」「未来への責任」を基本理念とし、生活者、納税者、消費者、働く者、また育児や介護をする者や、障がいと共に生きる者の声を我がものとして聞ける議員が、決死の覚悟で集った政策提案集団です。衆議院七人、参議院九人、計十六人がそれぞれ専門分野を持ち、行政監視機能を果たしながら、課題解決につながる提案を行い、実現していく事が自分たちの指標であり価値であると肝に銘じています。

議員数も少なく、様々な困難も予想されますが、国民民主党並びに伊藤孝恵を、これからもお育て頂きますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

コロナ不安に加え、寒い日が続いております。どうかお風邪など召されませんよう、くれぐれもご自愛ください。

二〇二〇年十二月八日

参議院議員 伊藤孝恵

